題字：住職

ほのぼの

第14号
平成18年
11月

発　行
神戸市須磨区戎町1－2－3
TEL 078－732－5209
信行寺門信徒会

ハワイで世界仏婦大会

〈本願寺新報〉より

世界各国から、三八五二名参加！

―信行寺からも四名の方が―。

第十三回世界仏教婦人大会が九月一日から三日間、ハワイ開教区で開催されました。世界仏婦連盟総裁のお裏方さまご臨席のもと、世界各国から約四千人が参加しました。この大会は各会員らの交流と平和の礎となる仏婦活動の推進などを目的に、日本や北米、ハワイ、カナダ、南米の各開教区が原則として四年ごとに順番に開催を担当しています。

今回のハワイ大会のテーマは、「願いに生きる」で、スローガンは「世の中安穏なれ　仏法弘まれ」でした。

開会式では、お裏さまはお言葉の中で「この大会は各国の仏教婦人会会員が直接出会い、言語や文化などの違いを超えて、言葉を交わし、親鸞聖人の開かれたお念仏のみ教えをいただく朋であることを確認し合う大切な場であり、阿弥陀さまの慈光に照らされるなら、人種や民族、文化の違いをこえて、他人のいたみを自分のいたみとして受け止める感性を養い、互いに許し合い、敬い合い、他の人とともにいきることができます。これからも聞法につとめ、お念仏のみ教えを喜ぶ仏教婦人として活動を進めましょう。」と呼びかけられました。各教区代表の開教使による意見発表やワークショップなどのほか、参加者同士でさまざまな交流が図られ、心温まる有意義な大会となりました。

第十三回世界仏教婦人大会に参加して

米田弘子

このたびハワイでの世界仏教婦人大会に参加するご勝縁に恵まれましたこと、大変幸せに思っています。信行寺門信徒会より三人のお方（泉井様、中川様、谷川様）がご一緒に参加されました。

日本、北米、ハワイ、カナダ、そして南米から集まった浄土真宗の念仏者が一同に会し、親鸞聖人のみ教えをとおして、念仏の尊さを改めて喜びあうことができました。

およそ百年前、日本の広島、山口、熊本などの地から遠い異国に渡ってこられた人々、当然苦難のつづく生活の中、それを乗りこえて生きていくためには、お念仏しかなかったのでしょう。その篤い思いで各地に本願寺が建設され、二世、三世へと受け継がれ、現在にまで聖人のみ教えが脈々とうけつがれていることに感動しました。

今回のテーマ、「仏の願い」即ち、それは「私が生きる。仏の願いによって生かされている私。」といただきました。現代社会、混迷の世の中にどのように生きるべきか。今、何ができるか。私一人から何かを始めなければ何も始まらない。」と、この大会を通じて奮起させられた思いがいたしました。

—ヒロ別院—

異国で、念仏に接したよろこび

泉井玲子

太平洋の楽園を生み出した神秘の島ハワイ諸島には、浄土真宗のお寺が三十八ヶ寺あると聞き驚きました。

労働力不足解消のために、海外からの移民受け入れを開始。一八六八年に初めて、日本人一四八名がハワイに渡ったそうです。開拓移民の方は、故郷を捨て異国での生活は、如何ばかりだったかと、想像に絶します。

心の支えとなったのが、親鸞聖人の開かれたお念仏のみ教えをいただく御同朋御同行の輪であったと思います。オアフ島、ハワイ島の本願寺を表敬参拝、熱心な婦人会の方の手作りの日本食やケーキで大歓迎を受けました。本大会では、二世三世の方と国境を越えて、様々な話に花を咲かせ、私の下手なジャパニーズイングリッシュが通じて、とても親しみを感じなごやかな雰囲気でした。二世の方の顔の皺には、御主人との思い出の絵巻が、一つずつ彫りこまれているように感じました。

来年の二月には、北海道観光に来られる由、やはり日本は第二の故郷なんですね。今大会のテーマ「願いに生きる」のもと、報恩感謝の日暮らしで、お念仏し一日一日を精一杯生きる事を、子供、孫へと伝えていかねばと感じました。本大会に参加出来た事に感謝しています。合掌

はじめてのハワイで・・・・

中川　さなみ

「世界仏教婦人大会」がハワイであると聞いたのは三年前の事でした。「ハワイ！」行けたら行きたいとの思いがついに今年、実現しました。初めての海外旅行に胸はドキドキ。坊守さんはじめ、ご一緒させていただいた方々には始めから終りまでお世話になりっぱなしでした。

大会を前に表敬訪問させていただいたコナ本願寺、ヒロ別院、ワイパフ本願寺、ハワイ別院それぞれの所で手作りの手厚いご接待をいただき心から感動と感謝の気持ちでいっぱいになりました。移民一世の方々の苦労の種がお念仏の心と共に二世、三世、四世の方々の中で根づき大きく花開いている事を実感し、ここに至るまでの想像を絶する苦難の道がうかがえました。

「願いに生きる」のテーマで始まった大会は、すべてが印象深いものでしたが特に開教使の方々の講演は女性として、母として悩み苦しみながら自分の置かれた立場に向い見つめつづけて、自らお念仏の心に目ざめていく姿に感銘を受けました。

世界各国から参加された同じ親鸞聖人のみ教えに生きる人々のお念仏の声が心にしみ、今回世界婦人大会に参加させていただいた有難さを思いすべての人に心から感謝しています。

ご先祖のおかげで

谷川　恵美子

このたび、「第十三回世界仏教婦人大会」に参加のご縁をいただきました。ホノルルの空港に降り立ちますと、青い空、澄んだ空気、暑くもなく、今からどんな大会が始まるのか、わくわくとした気分でした。コナ本願寺や、ハワイ別院とまわって、食卓に飾られたきれいな花や、おいしい食事など、当地の方々のご親切や、思いやりのお気持ちを、身にしみて感じました。ハワイのお寺では、大きな台所や、広い体育館などもあり、集まってきた人の食事などができる造りになっています。お寺ですから、その施設を利用する人が、手を合わせたり、聴聞のご縁をいただくことができるのでしょう。

大会では、ハワイの三世の方々とお話をする機会がありました。自分たちの祖父や祖母、両親などの苦労のおかげで、今の自分たちは幸せに暮せるのだというお話に胸をうたれました。阿弥陀様やご先祖に護られ、これからも強く生きていかれることでしょう。

裏方様のお話や、全員で合唱した歌、念仏の声が会場に響き渡った時の感激、生涯で忘れることのできないハワイの思い出になりました。

ホノルルコンベンションセンター大会会場にて
兵庫教区二号車の皆さん

ご本山伝道院の布教実習生さん

〝はじめての法話を…〟

信行寺にて

月田幹雄

六月二十三日、信行寺礼拝堂において本山伝道院の布教実習生と指導講師による法話をお聞きしました。

これは実習生が初めて門信徒の方を前に法話をするという研修会です。

この布教実習は、まず「おつとめ」から始まり、住職から実習生（宇野一教さん・田中謙太郎さんの二名）を紹介、各々二十分間の法話がありました。そのあと本日の指導講師、神明組真宗寺・宮里哲秀住職の法話をお聞きした後、お茶会に移りました。引き続き門信徒会の長井副会長から「激励のことば」を給り、参加された門信徒の皆さんからも「感想」などをお伺いしたところ、十一名の方々から暖かい応援の言葉をいただき、若い二人の今後の布教活動にプラスになると確信しました。本当にありがたいことです。

二人の実習生は、やはり緊張気味でしたが今までに勉強された知識を十分出して法話をされました。宇野さんは、「阿弥陀さまのお慈悲について」、田中さんは「煩悩について」自分の体験も含めて、うまくまとまった法話をされました。私達は若い二人の法話に感動し、よくここまで成長されたと感じ、大きな拍手を送らせてもらい、これを出発点として大きく羽ばたいてほしいと思います。

指導講師の宮里先生のような立派な布教師になられるよう、参加者一同、今後の活躍を期待し、研修会は閉会となりました。私もはじめての体験をさせてもらい、大きなエネルギーをいただきました。

合掌

宇野　一教さん

田中謙太郎さん

第24回夏期特別法座

夏期恒例の特別法座が、八月十七日に、須磨シーパルで開催されました。この法座が始まって四世紀半にもなり、一回の休会を除いて24回目を迎えました。当日参会された門信徒の皆さんにとっても、感慨もひとしおであったと思われます。

当日のご法話は、「如来大悲の恩徳」と題されて、歎異抄のご文章から浄土真宗の信心についてのお話でした。

お昼の会食のあと、コーラス部「みやび会」の皆さんによる仏教讃歌「花のこころ」、門信徒の皆さんと共に「見上げてごらん夜の星を」の斉唱がありました。

午後からの法話のあとは、同好会有志による肩凝り体操の指導、また受付で渡された有志の手作りの「法の音」と書かれた鈴など、お世話くださる方々のさまざまな気配りがみられて、楽しいひとときを過ごすことができました。

法話の中の言葉

科学の発展で人間の能力は落ちた

世の中便利になりました。テレビを見ておりますと、居ながらにして世界中のことが分かります。携帯電話など、どこに居ても連絡がとれる、そして写真やテレビの画面も見ることが出来るようになりました。しかしこれで私たちは仕合せになったのでしょうか。山野を駆けて狩猟をしていた時代の人間と、現代の人間とでは、視力も筋力も全く比較になりません。本来人間として具わっていた生活力が失われてきております。都会で大停電が起こるとパニックになり、どうしていいのか分からなくなります。それほど私たちは科学に依存する生活を送っております。しかし、それらを利用した犯罪も多発しており、学校の先生までが、携帯電話のカメラで破廉恥な行為をするなど、科学がいくら発展しても、人間そのものがついていけない状態です。環境が変り、社会が変っても、人間の本質は変りません。親を子が殺す、子が親を殺す、環境や社会が悪いのではありません。親鸞聖人が言われました「縁にあえばすまじきこともする」と。人間とは恐ろしいものです。

「間違った個人主義」

住　職

今、「経済の発展」を最大の目標にして世界中の人々が動いています。わが国も例外ではありません。

「開発」という名目のもとで、自然環境が破壊されています。樹木が切り倒され、山が荒れてしまい、熊も猪も食料を求めて人家の近くに出没する。人間がそうせざるをえないようにしておきながら、これらを追い払ったり、殺したりする。「人間の命だけが尊いのか！われわれはどうでもいいのか！」と熊は言うに違いない。

その人間も、人間の心を失ってしまい、親が子を殺し、子が親を殺す。人間が「自分だけが幸せになれたらいい」という畜生になりさがっている。しかも、世の大勢に巻き込まれてこのことに気づくことはない。うすうす気づいていたとしても、「世の流れにはさからえない」と自分に言い聞かせる。

「自由・平等」という大義によって「自分だけよかったらいい」という間違った個人主義が横行しています。お互い気をつけ、お念仏申させていただきましょう。

お寺とのご縁

野村照子

二十五、六年前のことです。「お寺にご用ですか」と云う声にびっくりして振り返ると若い婦人が自転車をおりてこちらを見て「婦人会の方ですね　すぐ開けますから上ってお待ち下さい」と云う声を残して自転車を押して中へ入られました。とすぐ本堂の障子が開けられ「ここでお待ち下さい。すぐ見えますから」と云ってサッと奥へ入られました。あれから随分いろんなことがありました。地震迄は御院様の熱心なお説教に会いたくてお堂に溢れる様なお参りがありました。事実私も早く行かねば前の方に坐れないので早く出掛けたものです。受付にはいつもにこやかな笑顔で長井さん、辻さんが今と同じ様に迎えて下さいました。

有難い御講師のお説教も優しく説いて頂き知らぬ間にこんなに年取ってしまいました。御本山へのお参りや旅行にも度々参加させて頂き今、振り返ってもよく行けたものだと思います。今少しボケの来ません様に念じながら日々を感謝の内に送らせて頂いて居ります。

※野村照子さんは

谷川俊雄さん、遠藤政子さんと共にご高齢にもかかわらず信行寺の毎月のどの法座にもお参りされ、皆さんのお手本になられている方です。

（住　職）

報恩講へのご案内

報恩講とは、宗祖親鸞聖人を偲び、そのご恩に報いるよう、お念仏をよりいっそう味あわせていただこうということからつとめられる、浄土真宗にとって、一年のうちで最も大切な仏事です。

信行寺では、

十二月十六日（土曜日）浅井成海師
十二月十七日（日曜日）住　職

二日間にわたって、午後二時より勤修されます。

昔から門徒の一軒一軒が、先祖の祥月・年忌法要よりも大切に、必ず報恩講法要をつとめてきたものです。

最近は、核家族や、家庭内の人間関係がもとで、悲惨な事件が続発しております。日常私たちが暮していくうえで、大切なものが忘れられてはいないでしょうか。お念仏を称え、ご聴聞させていただく、報恩講は最も良い機会ではないでしょうか。当日は、ご家族・ご親族お誘い合わせお参りさせていただきましょう。

（法話）

仏教讃歌

―旅ゆくしんらん―

白い小径がありました
ひとり旅路を急ぐのは
親鸞さまでありました
遠い旅ゆく人でした

お正月をお寺で

信行寺では、**毎年一月五日**に「元旦会（がんたんえ）」を修行しております。葬儀や法要ばかりではなく、お祝いの儀式も重要な行事です。この一年を、お念仏とともに生きる決意を新たにするため、如来様にごあいさつをしましょう。

編集後記

親鸞聖人七百五十回大遠忌まで、あと五年です▼五十年毎の聖人の命日は大遠忌と云い、蓮如上人の命日は遠忌として区別されているそうです▼ご聴聞のおかげで、いろんなことがわかってきます。▼人生五十年の昔の大遠忌は、一生に一度しか経験できない、きわめて大切な宗祖の法要でした▼このめぐりあわせを、喜ばせていただきましょう